

グリーンハウスのSUN SUN  
川崎美紀の  
SMILE通信  
きょうも  
おもてなし  
日和



**だ**まし絵(トロンブリユ)を見たことはありますか？  
最近トリックアートともいいます。一枚の絵なのに、見方によって「うさぎ」に見えたり「鴨(かも)」に見えたりします。2人が向かい合っているようにも、ワイングラスのようにも見えるものもあります。  
おもしろいですね。同じものを見ても、とらえ方や見方、感じ方が異なることは結構多いことに気がつきました。

見る人によって違う  
目の前の風景

この夏、越後湯沢へ行きました。

ちょうどお盆の時期で、東京駅は子ども連れや大きな荷物を持った人たちで溢(あふ)れかえり、「民族大移動」の真つただなでした。

新幹線のホームでは、分刻み、秒刻みかもしれないスケジュールで電車が入ってきては出て行き、を繰り返しています。

上越新幹線も混んでいるだろうと思ひ、早めにホームに着いて列の最前列に並んで待っていると、私の後ろに並んでいたご夫婦の会話が聞こえてきました。

到着した車内から降りてきた乗客と入れ違いに乗り込む清掃係を見て、

の気持ちで、目線で整える。簡単そう、実はなかなかできないことです。見る位置によって、手あかや汚れも見えたり見えなかったりします。

三者三様、  
「転がる石」の解釈

先日、ある勉強会の案内が届きました。若年者の早期離職を考える勉強会です。そこに今回、私が考えていることと同じようなことが書かれた文章がありました。許可をいただき、以下、一部加筆してご紹介します。

「ザ・ローリング・ストーンズ」というイギリスのロックバンドをご存知ですか。ミック・ジャガーを中心としたグループで「サティスファクション」などの曲が有名です。還暦前後の方をはじめ、世代を超えてファンも多いですね。

その名前の由来「ローリングストーン」はもともと「転がる石」という意味ですが、2とおりの解釈があります。

川の流れから離れた場所や山中などにある石は、洪水や暴風雨などの天変地異が起こらないかぎり動かないので、苔(こけ)が生える。一方、川の中にある石は流れに身を任せて転がっていくので、苔が生えない。

「A rolling stone gathers no moss. (転がる石に苔は生さず)」

【お知らせ】

「ビルメンヒューマンフェア&クリーン EXPO 2018」で講演します(11月20日)。 「女性を輝かせ素敵な職場を増やす」をテーマにお話する予定です。ぜひ会場においでください。 ※メイクのワークショップとパーソナルカラー診断ブースも企画しています。



川崎 美紀(かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>

国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年 JAL アカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当。



イラスト★ささきさとみ (<http://blog.goo.ne.jp/satomi343>)

これが文字どおりの意味です。ここから派生して、イギリスでは徐々に商売を変えては損ばかり出て、益が出ない。あるいは、絶えず恋人を替えている人は、真の愛が得られず結婚できない、という戒(いまし)めを表すことわざになりました。

ところが、アメリカでは、進取の気質を持ち、開拓者精神が旺盛なお国柄であったことから、絶えず活動している人は、いつも清新で、精力的で魅力に溢れている、という意味合いになりました。

風采が上がらなくても、いまは貧乏でも、能力・やる気・運などに恵まれ、人一倍努力すれば、将来、億万長者にもなれます。まさに「American dream」、ハリウッド映画が扱うテーマの一つです。こういう風潮の社会では、積極性が尊ばれ

ます。そのアメリカでは、能力のある人は、自分を「より高く買ってくれる」組織や人に売り込んで、より多くの収入を得ようとするのが当然視されています。次々に転職している人は能力がある証拠で、非難される筋合いはありません。……

つまり、このことわざは、イギリスではネガティブ、アメリカではポジティブな意味にとらえられています。そして現在の日本では、よい意味にもよくない意味にも使っています。三者三様です。

ザ・ローリング・ストーンズはイギリス出身、アメリカでも成功を収めて世界的なスターになりました。息の長い活躍をしています。興味深いことです。

Vol. 16 ものの見方、世界の見え方

夫:「掃除なんていいからさあ、早く入れてよー」

妻:「そうよね、暑い、暑い。でもテキパキ早いんだよね? この掃除、有名よ」

夫:「これから掃除? 掃除しなきゃダメなのか? そもそも、新幹線の到着が遅いんだよ」

妻:「見てごらん、短い時間で、一人でやってる、すごくない?」

夫:「あと5分まで出発だぞ、まだかっ!! 乗せろ」

妻:「はいはい、もう乗れるわよ」

同じシーンを見ているはずの2人なのに、漏れる感想、発する言葉は異なるものでした。

さらに、おもしろいことに、海外からの人が新幹線に向かってシャツ

ターを切っています。車内掃除の様子を、嬉しそうに写真に収めていました。

人によって、見方によって違って見えるのは、絵だけではないのですね。

きれい・汚いも  
視点によって変わる!

先日、ある企業に伺ったときのことです。

商談室に通されて待っている間に、見るとはなしに目に入ったところに、手のひらの跡がはっきり付いているのがわかりました。手の脂(あぶら)の跡です。

つや消しガラスが入った入り口の仕切り板の金属の上のほうに、見事にはっきり、くっきり付いています。

気になって立ち上がり、近づいていくと見えなくなっていました。座ると、またよく見えてしまいます。不思議です。立って近づき、今度は見る角度を変えてみると、ようやく見えました。手ごわい手形です。

清掃の方が手を抜いているとは思いません。でも、運悪く、ちょうど見える場所がお客様の席なのです。

トイレでも、同じことを感じたことがあります。

個室に入ったときは気がつかなくても、向きを変えて座ると見える汚れがあったり、ほこりが溜まっていたり、エチケットボックスが邪魔なところに置かれていたりします。

そういうとき、「ここを掃除している人はこのトイレは使ったことがないんだなあ」と思います。使う人